

全部のクルマが  
自動運転になったら  
電車を使う人って  
いるんだろうか？

相鉄を  
考えよう

*Think  
So!*



*Think*

考えよう、とことん、考えよう。

これからの鉄道、これからの相鉄を考えよう。

相鉄は「敷かれたレールにただ乗るだけ」の

鉄道会社なんかになりたくない。

私たちの当たり前が、本当に当たり前なのか

もう一度考えて、想像しよう。

きっとそれが、未来を創造する力になる。

*So!*



# 相模鉄道のミッションを考えよう

相鉄グループは、相鉄ホールディングスを持株会社とする約30社で構成する企業集団で、運輸業、流通業、不動産業、ホテル業、その他の分野で事業活動を展開しています。

生活に密着したサービス・お客さまのニーズを捉えた

裾野の広いサービスを提供し、地域社会の発展に貢献しています。

そのなかで相模鉄道は、地域のみなさまの移動を支える役割を担っています。

これからも相鉄グループ、そして相模鉄道が成長し続けるためには、

様々な取り組みを進め、相鉄が「選ばれる沿線」になっていく必要があります。



## 魅力的な沿線エリアの創造

相鉄グループでは現在、地域特性を活かした住環境や商業施設などの開発を進め、子育て世代にも優しく利用しやすい施設や、沿線への子育て支援施設の積極的誘致、幅広い世代が安心して居住できるサービスや環境を整えています。また、心安らくひとときを過ごせる名店を沿線に誘致する”相鉄沿線名店プロジェクト”や、相鉄沿線の魅力を発信するイベントの開催など、沿線にお住まいの方はもちろん、沿線外の方にも沿線での暮らしを知っていただく機会を設けています。相鉄沿線が「選ばれる沿線」になり、そこでの暮らしがより豊かなものとなるよう、様々な取り組みをグループで進めています。



## 相模鉄道の役割

私たち相模鉄道は安全・安心かつ快適な輸送サービスを提供し、地域のみなさまの生活を支えることが最大の使命であり、重要な社会インフラを担っています。「選ばれる沿線」になるためには、より便利で快適な輸送サービスの提供が必要なことはもちろん、少子高齢化や人口減少などが進むなか、今までどおりのやり方ではなく、これからの相模鉄道を、これまでの当たり前を疑い、考えていく必要があるのです。





# 仕事紹介 & 先輩の Think!

総合職

総務  
人事



林 和宏

Kazuhiro Hayashi

総務人事部 CS・広報担当 | 2014年入社  
商学部卒

外からの視点で、  
鉄道事業の常識を変える

新聞、テレビ、Web媒体等の取材対応、ニュースリリースやホームページの内容チェック、イベントの開催といった対外的な広報や、グループ報の制作協力などの社内広報を担当しています。たとえば「〇月〇日〇時頃、〇〇駅で〇〇系の列車を撮影できないか」といったテレビ局からの問い合わせがあれば、テレビ局と詳細を打合せ、該当駅や、乗務員の管理部署に協力を依頼し、車両の手配を行い、当日は現場に立ち会って安全管理を取り仕切る一方、制作側の要望に臨機応変に対応します。

車両



松本 彩

Aya Matsumoto

運輸車両部 車両課 | 2017年入社  
機械工学専攻修了

まだ見ぬ車両の  
開発に挑む

車両の機器更新工事やリニューアル工事を行っています。日常的な検査・修繕は車両センターで行われ、私が担当するのは、座席や塗装の変更といった、大がかりな仕様変更が中心です。その仕様の検討や工事の発注、工程管理などが私の仕事です。設計の仕事には正解がなく、「ここまで考えればOK」という終わりもありません。今は、学術論文まで読んで、自分なりの答えを探しています。

施設  
(工務)



宮武 沙良

Sara Miyatake

施設部 工務課 | 2017年入社  
都市科学研究修了

お客さまの声を、  
形にしていく仕事

駅や鉄道施設の建築における改良工事の設計・立案・発注業務を行っています。私は、各駅のトイレのリニューアルや待合室の新設、乗務員施設の整備、事業所の新築などを担当。横浜駅の駅係員用仮眠室を全面改装した際には、まず現場を下見して要望を聞き、協力会社に設計・工事の発注を行いました。どの工事も利用する人の想いを汲み取り、できるだけ寄り添うように努めています。自分が提案したものの好評を聞くとてもうれしいです。

施設  
(電気)



山谷 亮太

Ryota Yamatani

施設部 電気課 | 2012年入社  
工学部電気電子工学科卒

鉄道という商品の品質を、  
攻めの投資で向上させる

鉄道の電気には強電系と弱電系があり、私は信号や通信など弱電関係の業務を担当しています。信号機、踏切設備、転てつ機、列車無線などの重要設備や、駅の行先案内表示器やホーム上の保安設備などが確実に動作するよう、保守や設備交換の計画を立て、関係各所と調整を行い、協力会社との工事契約を結びます。鉄道という商品の「品質」を、どう上げるか。鉄道という商品の、「品質向上」を考えながら日々仕事に取り組んでいます。

## エキスパート職

乗務



石神 玲央

Reo Ishigami

運輸車両部 運輸課 | 2015年入社  
経済学部卒

### 格好いい運転士のいる、 格好いい会社を目指して

列車には個性があります。当社は先頃引退した7000系から最新の12000系まで車両の種類が多く、さらに同じ系統でも車両ごとのクセがあり、運転は簡単ではありません。特に難しいのがブレーキ操作です。ラッシュ時に約2500人のお客さまを乗せた列車と昼間の空いた列車では、ブレーキの効きがまったく違います。見習い期間の師匠だった先輩は、指差喚呼の一つひとつが格好いい運転士でした。先輩以上に格好いい運転士が、私の目標です。

車両  
技術



槇野 貴大

Takahiro Makino

運輸車両部 車両センター | 2016年入社  
工学部機械工学科卒

### 相互直通運転で、 保守点検も新時代へ

鉄道車両の検査業務を担当しています。子どもの頃から機械いじりが大好きだったので、台車に触れられるだけでうれしく、同時に「絶対に不具合を起こさせてはいけない」という安全意識を強く持ちました。たとえば架線から取り入れた1500Vの電気をモーターに流す断流器は、4年に一度、完全に分解してすべての部品を点検、洗浄、整備して、もう一度組み上げます。一つのミスも許されません。そうして自分が検査した電車が走っている姿を見ると、とても感慨深いです。

工務  
技術



村田 彩

Aya Murata

施設部 施設計画課 | 2013年入社  
理工学部都市環境学科卒

### 施設から、すべての駅の 「未来」を考える

施設計画課でホームドアの全駅整備に向けた準備を進めています。今は横浜駅にしかないホームドアを、2022年度までに残り24駅すべてに設置する計画です。私は既存のホームがホームドアを載せる強度を持っているのか、強度が足りない場合はどのような補強を行うべきか、といった設計・計画を担当しています。お客さまにご迷惑をおかけしないために、夜間にホームを壊して補強工事を行い、始発までに完了する計画を立てています。

電気  
技術



大林 峻

Syun Obayashi

施設部 電気課 | 2014年入社  
電気電子工学修了

### この仕事が、 安全輸送に直結する

電車の運行に不可欠な電気を供給する、各種電車線設備の保守点検を行っています。中でも重要な仕事が、トロリ線(架線)の管理です。摩耗量を0.01mm単位で測定し、摩耗が進んだ箇所については張り替えを行います。万が一にも断線が起きないように注意を払っています。鉄道の安全・安定輸送という重大な使命に最前線で関わり、直接支えることができる、大きな責任とやりがいを実感できる仕事です。



# これからの相模鉄道を考えよう

## ！ 変えてはならないこと、変わっていくこと

相模鉄道は、神奈川の中心部から横浜までを結ぶ唯一の路線として、創立以来100年以上、地域の方々の足として地元へ根ざし、日々の安全・安定輸送を通じて沿線のみならず、地域の暮らしを支えてきました。これからもその使命は変わらず、安全・安定輸送の追求に終わりはありません。一方、「都心直通プロジェクト」によってJR線との相互直通運転が実現し、相鉄沿線と首都圏の広域鉄道ネットワークがダイレクトにつながり、相鉄は新たなステージに入りました。この機会をどう活かして「選ばれる沿線」にしていくか。事業環境の変化がますます激しくしていくなか、これまでにない発想でそれを考えていく必要があります。（東急線との相互直通運転は、2022年度下期開業を予定しています。）



## ！ 変えていること

「都心直通プロジェクト」に限らず、「選ばれる沿線」になっていくために、様々な取り組みを進め、これまでの相模鉄道を変えていく必要があります。連続立体交差事業（星川駅～天王町駅）によって踏切をなくすことで、地域交通の円滑化を図ったり、ホームドアの全駅整備を進め、安全性を向上させていきます。また、「デザインブランドアッププロジェクト」と名付けた相鉄グループ全体のブランドイメージ向上を図るプロジェクトによって、駅や車両、制服などのデザインリニューアルを進めています。駅は、長く街の玄関口となり続けるよう、経年により古くならず時間をかけて醸成していく素材をキーマテリアルとして設定しています。車両は、外装のキーカラーをYOKOHAMA NAVYBLUEに一新。深みのあるダークブルーの塗装は、横浜の街が刻んできた歴史をイメージしています。さらに、つり革のデザインはどこを握っても心地よく、混雑した電車内の様々なシチュエーションでも安定するように考え抜かれた形に、照明も時間によって色温度を変化させることで落ち着いた空間演出をするなど、デザインや機能性においても、当たり前をもう一度考え直してリデザインしています。今までの大切にしながらも、今までにない変革を行うことで、新しい相模鉄道へと生まれ変わっていく必要があります。



少子高齢化社会だって。  
私がおばあちゃんに  
なる頃は、誰が席を  
譲ってくれるんだろう？

